



《彩雨》 1940(昭和15)年 絹本・着色 軸装 東京国立近代美術館

関連プログラム

講演会「川合玉堂の風景画の展開」

講師：吉田俊英氏（豊田市美術館館長）
 日時：11月6日(日) 午後2時～4時
 会場：神奈川県立近代美術館 葉山 講堂
 *申込不要、定員80名[当日先着順]、無料

学芸員によるギャラリー・トーク

日時：11月11日(金)、11月18日(金)
 各回 午後2時～3時
 *申込不要、無料(ただし「川合玉堂展」の観覧券が必要です。)

先生のための特別鑑賞の時間

日時：11月19日(土) 午前10時～12時
 対象：小・中・高・特別支援学校の教員・職員
 *申込が必要です。詳しくはホームページをご覧ください。

同時開催
 神奈川県立近代美術館 鎌倉 tel.0467-22-5000
 「開館60周年 シャルロット・ペリアンと日本」
 2011年10月22日(土)～2012年1月9日(月・祝)

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 tel.0467-22-7718
 「開館60周年 日本画ーザ・ベスト・コレクション」
 2011年10月22日(土)～2012年3月25日(日)

[優待料金のご案内]

有料観覧券(65歳以上券、高校生券を除く)半券のご提示で、本展会期中に限り、下記の施設に優待料金でご入場いただけます。
 神奈川県立近代美術館 鎌倉 tel.0467-22-5000 葉山しおさい公園 tel.046-876-1140 山口蓬春記念館 tel.046-875-6094

[葉山館への交通案内]

■公共交通機関利用の場合

JR横須賀線「逗子」駅前(3番のりば)または京浜急行「新逗子」駅前(南口2番のりば)から京浜急行バス「海岸回り(逗11、12系統)」で「三ヶ丘(さんがおか)・神奈川県立近代美術館前」下車(所要時間約18分)

■横浜横須賀道路利用の場合

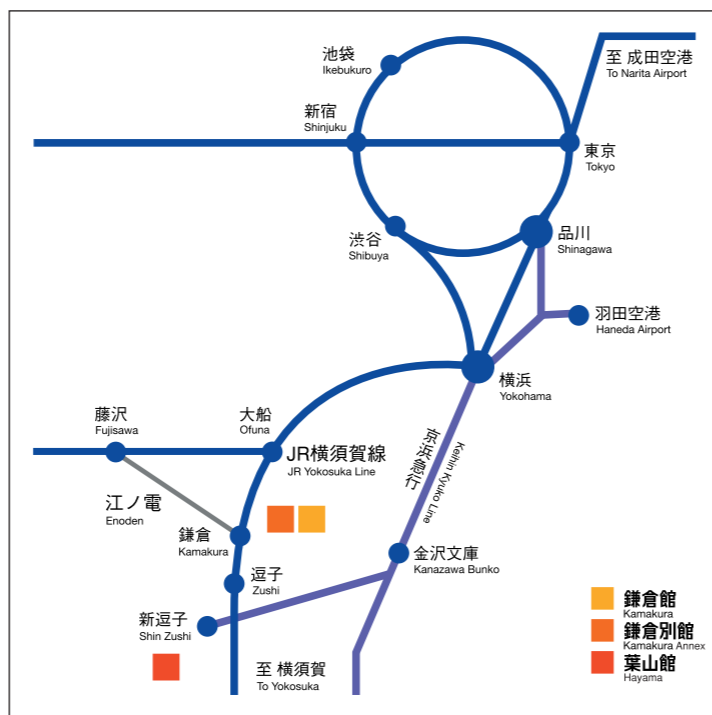
逗子インターチェンジから逗葉新道経由(7.6km)、または横須賀インターチェンジから県道27号横須賀葉山線経由(7.2km)

[葉山館駐車場(有料)のご案内]

営業時間 午前8時30分～午後6時(入庫は午後4時30分まで) 料金(1時間) 普通車 400円/大型バス 1,200円

*観覧券をお持ちの方は1時間無料です。*レストランやショップで2,000円以上ご利用いただいた方は1時間無料です。

*貸切バス等(定員11名以上)でご来館の場合は、駐車場の事前予約および前面道路の通行許可申請が15日前までに必要です。団体名、連絡先、来館日時、台数をご連絡ください。tel.046-875-2800



《秋晴》 1955(昭和30)年頃 紙本・着色 軸装 西宮市大谷記念美術館

川合玉堂展

—描かれた日本の原風景—
 KAWAI Gyokudo: A Retrospective

2011年10月22日(土)～11月23日(水・祝)

神奈川県立近代美術館 葉山 The Museum of Modern Art, Hayama

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1 tel.046-875-2800/fax.046-875-2968 http://www.moma.pref.kanagawa.jp

休館日 月曜日
 開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 観覧料 一般 1,000円(900円)/20歳未満と学生 850円(750円)/65歳以上 500円/高校生 100円
 *()内は20名以上の団体料金 *中学生以下および障害者手帳をお持ちの方は無料

主催 神奈川県立近代美術館/東京新聞
 特別協力 財団法人玉堂会/玉堂美術館

■ファミリー・コミュニケーションの日:毎月第1日曜日(11月6日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は、優待料金(65歳以上の方を除く)でご観覧いただけます。

■開館60周年記念 無料開館日 11月17日(木):この日は神奈川県立近代美術館で開催中の3つの展覧会を無料でご観覧いただけます。

神奈川県立近代美術館 葉山
 The Museum of Modern Art, Hayama

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1
 tel.046-875-2800/fax.046-875-2968 http://www.moma.pref.kanagawa.jp
 2208-1 Isshiki, Hayama, Kanagawa 240-0111



川合玉堂展

—描かれた日本の原風景—
KAWAI Gyokudo: A Retrospective

このたび神奈川県立近代美術館 葉山では「川合玉堂展—描かれた日本の原風景—」を開催いたします。

明治6年に愛知県に生まれ、岐阜で育った川合玉堂(1873—1957)は、円山四条派と狩野派を融合し、日本画壇において新たな境地を開拓しました。若い頃から線や墨の表現を重視し、四季の自然を描いた郷愁あふれる風景画で名を高め、その後も、自ら目にする田園や山岳の風景に深い愛着を寄せ、詩情豊かな、われわれの誰もが思い描く、懐かしい風景を描き出してきました。

本展は、玉堂の生涯を《「山水画」の時代》《「風景画」の時代》《「情景画」の時代》の三期に分け、代表的な作品によって紹介します。近代日本画の大家である玉堂の仕事振り返り、この画家が今の時代に残した風景像を探訪する大規模な回顧展です。現在ではその多くが失われ、忘れ去られていった「日本の原風景」を、画家がどうとらえ、どのように表現したのかを再確認しつつ、玉堂芸術の精華をご堪能いただければ幸いです。



《焚火》 1903(明治36)年 絹本・着色
軸装 五島美術館 *後期(11/8~23)のみ展示



《奔瀑遊猿》 1897(明治30)年 絹本・着色
軸装 一宮市博物館



《行く春》(重要文化財) 1916(大正5)年 紙本・着色 六曲一双屏風 東京国立近代美術館

第一章

「山水画」の時代(～明治30年代)

まだ絵画の世界に風景という言葉がなかった時代、伝統的な画題や技法の枠を守りつつも、新時代にふさわしい自然の表わし方を求めて工夫を重ねていた玉堂の、中国絵画や従来の日本絵画の受容とその咀嚼を紹介します。玉堂のこの期の作品には、多くの形式化された枠組みの中で制作される「山水画」から、近代の「風景画」へと脱皮しようと格闘している跡が見られます。

第二章

「風景画」の時代(明治40年代～昭和前期)

明治後期、それまでの固定化された名所や、パターン化された風景ではなく、身近な名もない風景の中にも美を見出す、自然への視覚や意識の変化が文学作品をはじめとする各ジャンルで明らかになってきます。絵画の分野において、それは「山水画」から「風景画」への転換の時期でした。こうした中で玉堂も近代的「風景画」の確立を目指していました。それが結実したのが1907(明治40)年の《二日月》です。ここでは、現実的な光・空間・色彩などの表現を獲得し、日本の風景画に新しい局面を切り開いた時期を辿ります。



《鶴飼》 1931(昭和6)年 絹本・着色 額装 東京藝術大学



《二日月》 1907(明治40)年 絹本・着色 軸装 東京国立近代美術館



《月天心》 1954(昭和29)年 絹本・墨画 軸装
公益財団法人岡田文化財団 パラミタミュージアム



《夏川》 1953(昭和28)年 紙本・着色 軸装 個人蔵



《出船》(絶筆) 1957(昭和32)年 紙本・着色 軸装 個人蔵



《峰の夕》 1935(昭和10)年 絹本・着色 軸装 個人蔵
*後期(11/8~23)のみ展示



《鶴之春》 1937(昭和12)年 絹本・着色 軸装 桑山美術館

第三章

「情景画」の時代(昭和後期)

大戦後の俳諧味を増してゆく風景表現の時代です。玉堂は幼少の頃から詩的な資質を持っていましたが、年齢とともによりその傾向を強めて、自らが暮らす奥多摩の四季の移り変わりを鋭敏な感受性を持って受け止め、自然とともにある生活を豊かな彩りを交えて描き出してきました。玉堂は風景や自然の見える部分だけを描いたのではなく、日本人の人生や歴史をも見ていたといえるでしょう。